

# 市史編さんたより



(37)

## お天気のことわざ

昔、天気予報が行われていなかったか、もしくは行われていたとしても十分普及していなかった頃、東村山地方の農家の人たちは、古くからい

伝えられてきた天気に関することわざを利用して、日々の生活設計を立ててきた。へびしごとわざは、強いきつなで結ばれていたのがある。

近年、天気予報は著しく進歩したが、それでも天気が不安定で変化しやすく、また地域によつて

天気が著しく違つたときなどには、天気予知のことわざを利用した方が的確に天気を予知することができるといふ。産業気象学者(1)といふ。このよつに、科学が進歩した現在でも、天気予知のことわざは大変役に立つと考えられている。

以下、東村山地方の農家で伝承されてきた天気予知のことわざのうち、日常生活に関するものだけに限つて紹介する。

・前日あかきれが痛むと翌日北風が強く吹く(4)  
・土台石、玉石、コンクリートがしめつていたら天気は下り坂(1)  
・きざみたばこがしめっばいから天気が変わる  
・茶わんに米粒がつくと晴れる  
・太鼓の音が鈍いから雨になる  
・雨が近くなるとその辺が小便くさくなる。  
・リニューマチが痛みだすと天気が悪くなる(2)  
・種がしめっばくになると明日は雨(3)  
・入浴後、手がいつまでもふやけてしわになっていると雨になる  
・土間がしめつていると雨になる  
・土間や土間の石がしめつていたら台風が来る  
・壁の隙き間が広がれば晴れ、心ががれば雨

水がめが乾いているときは天気が続く  
機(はた)の「ひ」や「おさ」の動きがさっぱりしない時は雨になる  
夕方、梅岩寺の鐘が聞こえたと明日は晴れ  
平林寺の鐘が聞こえるときは雨  
かまどの煙がこもるときは風がでる  
なお、カッコ内の数字は回答頻度である。  
自然担当 新井頌久